

## ■2012年度 PM

本事業の実施にあたっては、特に独創性を評価するため、産学官から専門知識を持つPMを委嘱しています。2012年度のPMは以下のとおりです。

(敬称略。統括PM、PMごとに五十音順)

	氏名	所属	PMの審査基準
1	竹内 郁雄 (統括PM)	早稲田大学理工学術院教授 東京大学名誉教授	— (※)
2	夏野 剛 (統括PM)	慶應義塾大学 大学院政 策・メディア研究科 特別招 聘教授	
3	石黒 浩	大阪大学 大学院基礎工学 研究科システム創成専攻 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まだ誰も作ったことがないシステムを作る提案</li> <li>・ 世の中に普及しそうなシステムやソフトウェアを作る提案</li> <li>・ 人の能力や新たな側面をあらわにするシステムの提案</li> <li>・ 人や社会の本質を知ることができるようなソフトウェアやシステムの提案</li> </ul> いずれの提案においても、プロジェクト推進において十分なソフトウェア開発能力と熱意を持っていることが必要
4	越塚 登	東京大学 大学院情報学環 教授 YRPユビキタス・ネットワー キング研究所 副所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何を作るかだけでなく、どのように作るか(技術)に関心があり、高い技術に挑戦しようとする意欲が感じられる提案</li> <li>・ 機械をプログラムするのではなく、社会や世界をプログラムする意思が感じられ、作るのは機械ではなく、作るのは未来の社会や世界(ビジネス)だという意気込みのある提案</li> <li>・ ソフトウェアにかける意欲が感じられる提案</li> </ul>
5	後藤 真孝	産業技術総合研究所 情報 技術研究部門 上席研究員 兼 メディアインタラクシ ョン研究グループ長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来を切り開く夢のある提案</li> <li>・ 「作りたくてたまらない」「欲しくてたまらない」という気持ちを持つ提案</li> <li>・ 「採択されたから作る」のではなく、「採択されなくても何とかして作ってやる」くらいの本気度をもつ提案</li> <li>・ 発想、技術、熱意等とんがって、インパクトを与える提案</li> </ul>
6	首藤 一幸	東京工業大学 大学院情報 理工学研究科数理・計算科学 専攻 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が提案するテーマを愛しているという情熱をもつ提案</li> <li>・ こいつは何かやってくれるという期待感がもてる提案</li> <li>・ 狙う成果が人に与えるインパクトの大きい提案</li> <li>・ 現実味のある提案</li> </ul>
7	原田 康徳	日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科 学基礎研究所 主任研究員	基本的にどのような分野でも可とするが、 (1) 誰かを確実に幸せにするもの。 (2) 誰かが不幸にならないもの。 という観点で審査。
8	藤井 彰人	グーグル株式会社 エンタ プライズ部門 シニアプ ロダクトマーケティングマ ネージャー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイデア： 独自性、新規性、優れた着眼点</li> <li>・ 実用性と芸術性： ユーザビリティ、アトラクティブティ</li> <li>・ テクノロジー： 独自性、先進性</li> <li>・ ビジネス： 発展可能性</li> </ul>
9	増井 俊之	慶應義塾大学 環境情報学 部 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存技術の改良のような提案(e.g. 「～の高速化」)よりも、これまでできなかったことを可能にする提案・意外性のある提案を重視</li> <li>・ 社会を根本的に変えようという大それた提案</li> <li>・ これまで計算機が使われていなかった場所や状況における新しい応用</li> <li>・ アイデアの新規性、有用性、エレガントさ、多くの人間を幸福にすることができる提案</li> </ul>

(※) 統括PMは審査において各PMが設けた審査基準と選定結果の妥当性等を精査する役割を担うため、個別の審査基準はありません。